



# 社会科(歴史的分野)学習指導案

## 授業の見どころ

元の襲来から鎌倉幕府の滅亡という流れは、郷土熊本の竹崎季長を通して興味深く授業がなされることが多いようです。ここでは、さらに、元の侵略を東アジアとの関わりの中でとらえることに主眼を置いてみました。

中学1年生にしてはやや難しい内容かもしれませんが、絵画資料や読み物資料等から、広い視野で見ることに気付かせていこうとする提案です。

日時	平成16年11月22日(月)2校時
場所	宇土市立鶴城中学校 1年6組教室
年組	1年6組36人(男子19人 女子17人)
指導者	宇土市立鶴城中学校 教諭 門岡 啓介

## 1 題材名 「モンゴルの襲来と日本」

## 2 題材について

(1) 武家政権の成立や展開を、鎌倉幕府の成立などの社会的な変動を通して理解させるとともに、その間の東アジア世界との関わりに気付かせるために本題材が位置付けられる。

また、わが国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に理解させ、広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深めることは、現代社会においても重要なことである。

さらに、歴史にみられる国際関係においては、二国間だけではなく周辺諸国の歴史や文化が深く関わっていることを考えさせるとともに、他民族にも関心を持たせ、国際協調の精神を養うことも大切である。

そこで、ここでは、元寇と戦った竹崎季長を通して、生徒たちの歴史に関する興味・関心を高め、基礎的な事項を指導するとともに、やや発展学習的にはなるが、元の侵略について、資料を活用して、東アジア全体の流れの中で多面的・多角的にとらえていきたいと考えている。

県社研のサブテーマにあるように、この題材は、郷土熊本県の歴史上の人物が登場するので、生徒の学ぶ意欲は高いものがあると思われる。生徒たちの思考判断を助ける発問を工夫して、目標にせまりたい。

(2) 小学校からの系統性は次のようになっている。

小学校第6学年：「いざ鎌倉」って、なかに・・・鎌倉幕府と元寇
中学校第1学年：「東アジア世界との関わりと社会の変動」

(3) 男子は明るく元気で、発言もきちんとできる。女子は自分自身の考えをしっかりと持って授業に取り組むことができる。全体的に社会科の授業に対する意欲は高く、前向きである。

### ・アンケート

竹崎季長を知っているか	・知っている・・・・・・・・・・31人 ・知らない・・・・・・・・・・5人
竹崎季長について知っていること	・熊本の人・・・・・・・・・・13人 ・元と戦い訴えてほうびをもらった・・7人 ・現小川町海東出身・・・・・・・・6人 ・元軍と戦った人・・・・・・・・5人 ・御家人・・・・・・・・・・2人
元寇について知っていること	・嵐にあって2回とも失敗した・・23人 ・元は集団戦法で攻めてきた・・5人 ・フビライがリーダー・・・・・・・・3人 ・蚊に刺された・・・・・・・・・・2人 ・石垣・・1人、てつはう・・1人、運良く勝てた・・1人 ・元寇について知らない・・5人

生徒たちは竹崎季長やその活動についてある程度知っており、元が日本襲来に失敗していることをおぼえている生徒も多い。しかし歴史的事象の理解が羅列的で、関連的・構造的にとらえきれていないと思われる。

- (4) 元の成立からモンゴルの襲来、戦いの様子、元寇の影響と鎌倉幕府の滅亡という流れをおさえるとともに、ここでは、元寇を東アジア全体の観点から再考するために、「日本が元の襲来を防いだ本当の理由を考えよう」と問いかけ、いろいろな資料から、周辺民族の粘り強い抵抗があったことについて気付かせていきたい。

資料を見たり読みとる時間を確保し、友達と意見を交わしながら取り組ませたい。

### 3 題材の目標

(1) 竹崎季長の行動を通して元寇に関心を持ち、その背景や社会の変化を意欲的に追究できる。	社会的事象への関心・意欲・態度
(2) 元寇について多面的・多角的に考察し自分の考えを持つことができる。	社会的な思考・判断
(3) 元寇について、蒙古襲来絵詞等の資料を適切に分析し、活用できる。	資料活用の技能・表現
(4) 元寇の意義及び日本社会に及ぼした影響について多面的・多角的に理解できる。	社会的事象についての知識・理解

### 4 題材の指導計画(3時間扱い)

次	題材	主な学習内容	配当
1	モンゴルの襲来と日本	日本国内から見た元寇(竹崎季長の奮闘)	1時間
2	"	元寇と東アジア世界の関わり	1(本時)
3	"	元寇の影響と鎌倉幕府の滅亡	1

### 5 題材における基礎・基本

	基礎	基本
「社会的資質」 (社会的事象への 関心・意欲・態度)	竹崎季長や元寇について関心を持ち、自分なりの方法で調べようとしている。	元寇について知り、竹崎季長について、意欲的に調べて、発表や提案をすることができる。
「社会的な思考・判断」	元寇を考察し、元寇の背景について自分なりに考えることができる。	元寇について、多面的・多角的に考えることができる。
「社会的な探求の仕方」 (資料活用の技能・表現)	元寇について、蒙古襲来絵詞等の資料を自分なりに適切に活用できる。	蒙古襲来絵詞から、元寇に関する情報を適切に選択し、自分の考えを持ち、活用できる。
「社会的知識」 (社会的事象についての 知識・理解)	元寇の経過についてつかむ。	元寇が日本社会に及ぼした影響について理解できる。

## 6 本時の学習

### (1) 目標

資料を分析し、日本が元の襲来を防ぐことができた理由について、意欲的に調べようとする。

元の侵略を東アジア全体の観点からとらえ、諸民族の抵抗により、日本が元の襲来を防ぐことができたことを、資料から考察し発表することができる。

### (2) 展開

学習活動	時間	教師の支援	教材・教具等
1 前時の復習をする。	5分	元の襲来について、基礎的な事実等を確認する。 元の面積の広さ及び日本と元の兵力のちがいをあらためて実感させる。	世界地図 カード（元と日本の面積及び兵力）
2 日本が元の襲来を防ぐことができた理由について発表する。 (お互いの意見を聞く)	5分	生徒の考え板書し、認める。 ・御家人の奮闘 ・神風（暴風雨） ・石塁などの防備 「もっと他にも理由があるかもしれない！」と疑問を投げかける。	カード
なぜ、日本が元の襲来を防ぐことができたのか考えよう！			
3 資料1と2を見て、気づいたことを発表する。その後、出された内容について考える。	15分	資料の中に、元の襲来を防ぐことができた秘密が隠されていることを伝える。顔の特徴や服装の違い等に気付いた生徒たちをほめ、さらに、なぜ違うのかについて考えさせる。	戦う元軍の様子、船に乗る元軍（各班） スライドショー（元軍の様子・・・全体） 学習シート
4 資料3と4を見て班で意見を出し合い、日本が元の襲来を防ぐことができた理由を考え、発表する。	15分	資料から、元軍の服装や顔が違うのは、モンゴルや高麗、南宋の民族が入りまじっていることに気づかせる。 資料のどの部分から理由を考えたのかを明確にさせる。	高麗の様子 各地の抵抗の様子（年表）
5 学習したことを学習シートに記入し、教師の補足説明を聞く。	10分	元の占領地の根強い抵抗が、日本遠征を遅らせたことや、遠征軍が混成軍のためまとまりがなかったことにふれる。 3度目の日本遠征計画断念にもふれる。	世界地図 学習シート